第 16 回　にぎわい創出検討部会

令和 5 年 3 月 2 日（木）　16：00 ～

宇部市役所 3 階会議室 3-3

出席者　部会長 + 部会委員　6 名

今回の検討部会の目的は？

ウォーカブル、即ち「**居心地が良く歩きたくなる**」まちをつくるためには、常盤通りだけで完結することはできない。雰囲気の良い通りをつくることは勿論のこと、エリア全体に魅力のある目的地を増やしていく必要がある。

真締川 + **新庁舎広場** + **井筒屋跡地** + **琴芝街区公園** + **商店街等**の地域特性を読み取り、それに沿ったエリア別のビジョンと方針を踏まえ、沿道建築（民間、公共）との関係を考える。

第 16 回となる本会では、行政による今後の常盤通りの管理体制案・情報発信案の打診に加え、今年度の社会実験の調査結果と社会実験全体の報告会を行い、今後の課題と運営について議論した。

今回の部会の議題

管理運営体制（案）について

情報発信（案）について

社会実験結果報告について

01 管理運営体制（案）について

整備前後での管理運営にかかる負担の増加を踏まえ、管理運営主体として中間組織を設ける案があがった。関連主体との連携の円滑化や民間のノウハウによる空間を柔軟に活用することなどが可能となり、最終的に収益の一部をまちづくりに還元する狙いがある。

02 情報発信（案）について

これまでの常盤通りのウォーカブル化に向けた情報発信は、行政を中心に定期的な発信を行なっていた。今後（R5 年度以降）はこれまでの情報発信方法に加え、ウォーカブル推進協議会の SNS アカウントを作成し、整備の経過を随時発信していく提案があがった。

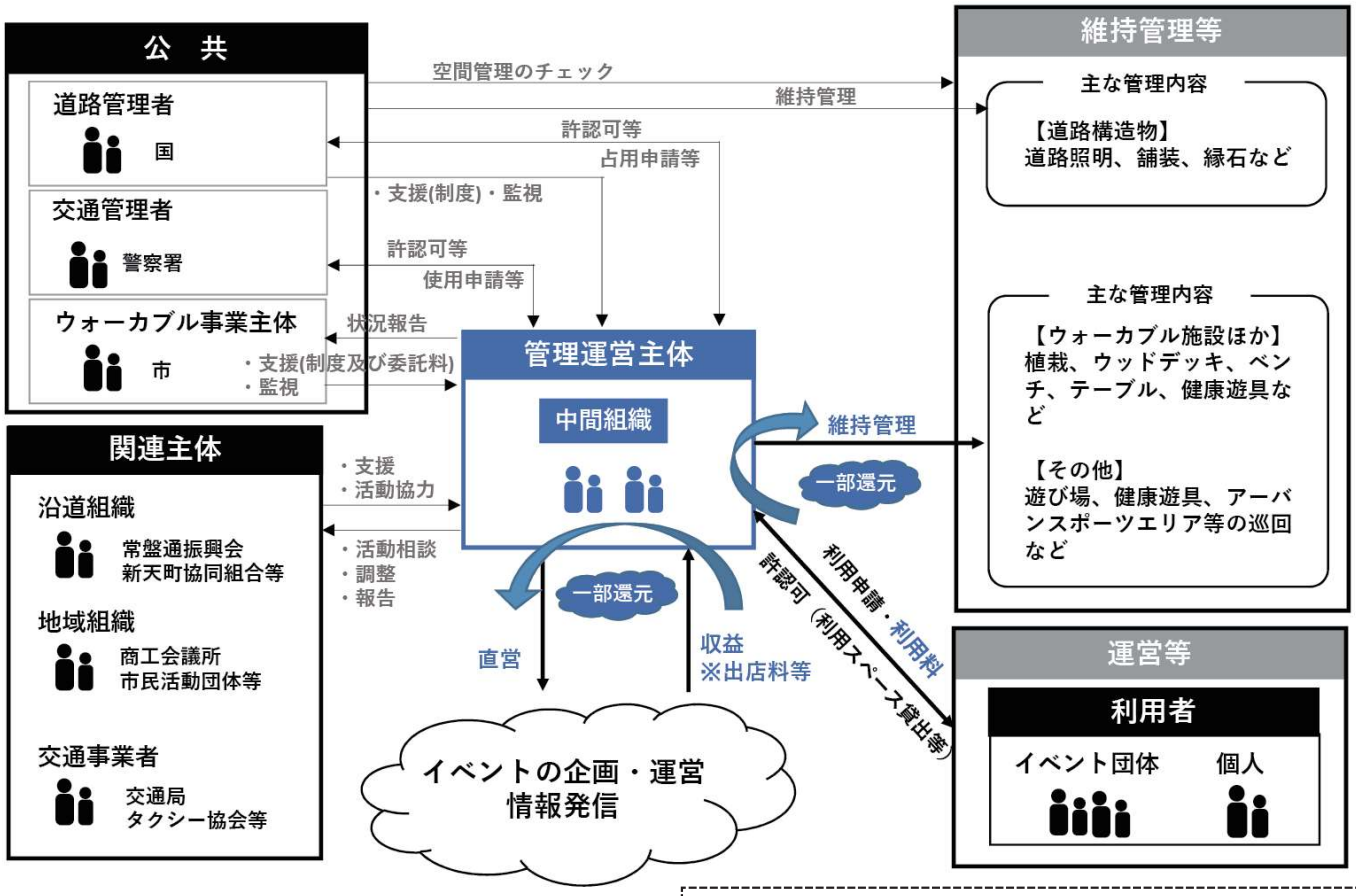
03 社会実験結果報告について

社会実験期間中に行なった調査結果等から社会実験全体の評価と今後の課題の共有を行なった。

1 常盤通りの管理運営体制（案）について

管理運営主体として中間組織を設ける案

今までは公共が主体であったが、中間組織を管理運営主体とする提案



中間組織が管理運営主体となるメリット

① 民間のノウハウにより空間を柔軟に活用できる。

② 収益を管理運営費に還元する仕組み作りが可能である。

③ 運営者や利用者の視点を意識した維持管理ができる。

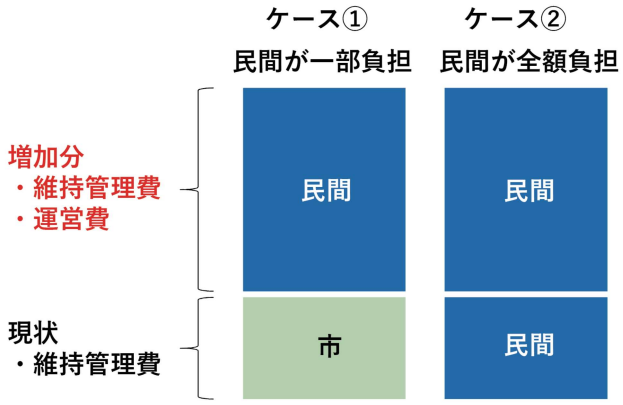
④ イベントを主体的に開催することができる。

⑤ 関連主体との連携が図り易い。

⑥ 利用者の各種手続きを支援できる。

ケース別負担のイメージ

段階的に体制を整えて、負担のバランスをとっていく



部会での質問と回答

・中間組織は誰が行うのか？

　　→未定であるが、今後検討を行う。

その他の意見やアイデア

・中間組織の準備段階として仮の組織をつくるのが必要だと感じる。

・今後の部会では、収益の上げ方のアイデア出しを行えばいいのでは？

　　→事例として、四日市市（三重県）は民間への外部委託による運営を行なっている。

2 常盤通りのウォーカブル化に向けた情報発信（案）について

これから（R5 年度以降）はこれまでの情報発信方法に加え、ウォーカブル推進協議会の SNS アカウントを作成し、整備の経過を随時発信していく提案。

これまで（R４年度実績）	これから（R5年度～）
市HP、広報紙での定期的な情報発信（記事掲載）	市HP、広報紙での定期的な情報発信（記事掲載）
動画作成（全3作品） 市HP及びyoutubeで公開 市役所1階ロビー等で放映	各種情報の報道発表 宇部日報・山口宇部経済新聞 ほか各種メディアへの発信等
各種情報の報道発表 社会実験について 宇部日報・山口宇部経済新聞・KRY ウォーカブルについて 宇部日報（正月特集記事）	（社会実験について） SNS発信 YCCU,ときわいこっと。等のアカウントにて適宜情報発信 専用ウェブサイト、チラシ 市長youtubeチャンネル
（社会実験について） SNS発信 YCCU,ときわいこっと。等のアカウントにて適宜情報発信 専用ウェブサイト、チラシ 市長youtubeチャンネル	**ウォーカブル推進協議会のSNSアカウントを作成** **実施設計のイメージ発信、新庁舎2期棟、にぎわい交流拠点も含め整備工事の現況等を随時発信（Instagramを想定）** **T-Terraceロゴ作成** **【案】**

部会での質問と回答

・誰が運営していくのか？

→未定であるが、将来的には中間組織が行う予定である。

その他の意見やアイデア

・目的を明確化した情報発信を行うべき。

・情報発信は長期的な視野で行うべき。

→情報発信といっても行うことは様々あり、予算の使い道を議論していくべき。

・発信媒体は流行の移り変わりがあるため、慎重に選ぶべき。

→実践例として、インフルエンサーに依頼することは発信力がある。

・歩道照明のフラッグなど、市民の目に映りやすいアイテムを活用するのもいいのでは？

・情報発信の業務が行政によるものだけであると、引き継ぎが難しくなりそう。

・市長の youtube チャンネル等を市内の小中学校で視聴する機会を設けるといいのでは？

→結果的に子育て世代への周知につながる。

3 社会実験結果報告について

本格実施に向けた課題と取り組み

実験メニュー	手法	課題	次年度の取り組み予定
(1)副道の活用形態の変更による滞在空間の創出	車両通行止め	実験前と比べ実験中の平日と週末は、滞在人数は増加したものの歩行者通行量は増加しなかった。	・AIカメラやLiDARなど人流分析を行い、常盤通り周辺の人流を明らかにすることも検討していきたい。 ・子ども遊び場エリアについては、より整備方針に近い形で具体的な実験を行い、検証を行う。 整備方針で示した健康遊具エリアなど今回実施しなかったコンテンツについても仮設的に設置し、効果を検証していく。 ・様々な利活用ができる場所として市民等に幅広く周知するとともに、沿道事業者の参画を目指す。 また、毎週末に集客力が高いコンテンツを実施し、個人レベルでの利用促進を図る。 ・実験は、天候に左右されないよう考慮し実施する。
(2)副道の活用形態の変更による横断歩道の延長の短縮	車両通行止め	特になし。	横断歩道の延長の短縮の必要性が確認できたため、実施に向けて、引き続き警察と協議を行う。
(3)副道の活用形態の変更による副道から本線への流入の安全性の確認	車両通行止め	実験中に発生したヒヤリハットの中で大きな課題は副道の逆走であった。	市民等に副道の活用形態が変わることを幅広く周知するとともに、警察等と将来の整備時における規制標識等の設置について協議を行っていく。

実験メニュー (3) の対策イメージ▶

その他の意見やアイデア

・ポストコーン設置への是非

→宇部まつり等により歩行者天国の利用が行いやすい対策方法にすべき

3 社会実験結果報告について

本格実施に向けた課題と取り組み

実験メニュー	手法	課題	次年度の取り組み予定
(4)周辺駐車場との連携	その他 駐車場関連	実験前と比べ実験中のイベント時や週末は駐車場稼働率が増加したものの平均稼働率は4割以下であった。	・早い段階から事前周知するとともに、駐車場の周知方法を検討していく。 ・引き続き利活用の実験を行っていくことで認知度を高める必要がある。 ・今後社会実験を重ねることで、常盤通り周辺で必要な駐車場の総量を把握していく。 ・アプリ等を利用した常盤通り周辺の駐車場のリアルタイム情報発信の手法も検討していく。 ・公共交通の利用促進の検討も行っていく。